

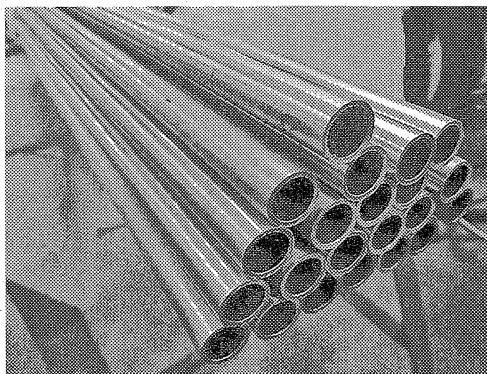
欧州の核融合発電実証案件向け

大和合金が「銅合金管・板」受注

銅合金の鋳造品・鍛得している。フランス造品メーカーである大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は次世代エネルギーとして期待される核融合発電に関連する新規受注を相次ぎ獲得した。

核融合発電は環境負荷が小さいほか原料が調達しやすく、実証プロジェクトが世界的に進められている。同社では特に大規模な実証案件であるITER向けには、高温下でも強

リング会社から押出・59本の受注を獲得し引抜きで製造する管2本た。



大和合金が核融合実証プロジェクトなどに供給する銅クロムジルコニウム管

同社の管はエネルギーを生むプラズマの性能を保ち発電能力を左右する重要な装置ダイバ

ータで、冷却部材の材料に用いら

れる。約3年生産・納入する計画となっている。

今後はマイクロ波を伝える導波管の材料に関する予定。また、ついても受注も目指す考えだ。

順次納入する予定。また、ついても受注も目指す考えだ。